

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第7回)

議事概要

令和6年6月5日(水) 13:00~15:00

於:経済産業省別館2階240共用会議室

各委員からの主な意見

- 先日、渡島トンネルの工事現場を視察したが、柔らかく崩れやすい地盤や、膨張性を有し高い圧力が作用する地盤など、特殊な地盤状況を現地で見たことにより、本州とは異なる当該地域特有の地盤の複雑さが理解できた。こうした地盤の特殊性も含め、引き続き地元の方々に現場でどのような苦労があるのかを分かりやすく伝えていく努力が必要。
- 早く工事を進めてほしいという意見がある一方、工事中の安全性はもとより、適切な施工によって、完成・開業後の鉄道施設の地震時を含む長期的な安全性を確保することが重要である、ということを広く理解してもらう必要がある。
- 長尺ボーリングについては、未掘削区間の地質を把握するだけでなく、事前に最適な支保工のパターンを予測する等により、工程の短縮にも活用できるようにしてほしい。
- 羊蹄トンネルにおいては、掘削停止の事象が生じ、シールドマシン前方で新たな岩塊が確認されたとのことだが、今後も同様の事象が生じる可能性があることから、地上からのボーリング調査以外の対応策がないかを引き続き追求すべき。
- 工期に一定の幅を持たせて示すことが適切であるが、その幅をどうやって設定するのか、その考え方や根拠をしっかりと整理する必要がある。
- 設備工事からみて、クリティカルになる土木工事の工区について明確にする必要がある。